

研修医の関与したインシデント・医療事故

- 医師の関与したインシデント・医療事故 115件
- 研修医の関与したインシデント・医療事故 67件

$$67/115 = 0.58$$

誤薬(輸血関連を含む)	15件
手技関連	12件
医療機器関連	10件
診断・治療関連	8件
情報伝達ミス	6件
転倒・転落	4件



手技関連インシデント・医療事故事例 1

気胸の患者さんにアスピレーションキットで胸腔穿刺を行ったが、冠動脈損傷し、心タンポナーデ、ショックとなった。

院内緊急コールを発信し、緊急開心術で救命した。



手技関連インシデント・医療事故 2

臍帯カテーテルを除去するとき、固定糸を切った時に臍帯カテーテルまで切断したのを気づかず、10日後臍脱後、カテーテルの先端が見えた。胸部X-Pを見直したところ、カテーテルの先端が右房まで達していることに気づいた。

全身麻酔下で除去



手技関連インシデント・医療事故 3

左肘静脈より採血しようとしたが、途中で血液逆流がなくなったため、その部の圧迫止血なしに、右側からの採血となった。その後、左側の局所の疼痛と手のしびれが出てきた。

血腫による正中神経圧迫と判断し、上肢挙上にて観察、徐々に改善した。



手技関連インシデント・医療事故 4

大腸ファイバースコープ施行中、S状結腸に穿孔

緊急手術で穿孔部縫合、腹腔内洗浄で、救命。



手技関連インシデント・医療事故 5

右頸静脈から透析用V-Vカテ挿入トライ。頸動脈を穿刺したためカテーテルを除去、出血、血腫による気道圧迫で、気道閉塞。

補助換気で換気できず、院内緊急コール発信。緊張性気胸も考えられ、胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、気管内挿管で、換気可能となった。



手技関連インシデント・医療事故 6

- 右鎖骨下静脈からのIVHラインを抜去するために固定用糸をハサミで切ろうとしたところ、患者さんが動いたためラインごと切断。
- 局所麻酔下、小切開で断端を探したが見つからず、スタッフをコール、レントゲンで右房に迷入していた。放射線科医が経静脈的にカテーテルで摘出。



結論：臨床研修指定病院で、患者さんに安全な医療を提供するためには、研修医の行う侵襲をともなう基本的手技についてはライセンス制を導入し、その習熟度の評価法を確立しなければならない。



研修医の現在の手技習得法

- 指導医あるいはシニアレジデントがマンツーマン方式で指導
- 屋根瓦方式
- 大きな手技では常に指導医やシニア研修医がついている

- 問題点:

侵襲手技の実施施行能力の判断基準がない。
手技の標準化がなされていない。



研修医の現在の評価法

1. 総合評価

回数: 1年に1回

評価対象: 指導医から研修医、研修医から指導医、研修医間、ナースから研修医

評価項目: 人間性、患者や他の職員との関係
全体を院長、研修委員長が目を通して、
フィードバックは各個人、各グループへ



研修医の現在の評価法

2. 形成的評価

回数: 4ヶ月に1回の年3回

目的: フィードバックをかけていい方向に向ける

参加者: 1年次、2年次研修医、研修委員会委員長
副委員長

検討項目: 救急室と病棟入院の担当症例数、
当直の回数、病休(健康管理)

検討方法: 各自のデータを渡し、全体と比較



研修医の現在の評価法の問題点

- 人物評価的な面が主である
- 症例数、当直回数等おおざっぱである
- 手技の到達度等の質的評価に欠ける
- 自己評価を含む、主観的評価である
- 手技の向上につながっていない可能性がある



基本的手技とは

- 中心静脈カテーテル挿入
- 動脈ライン挿入
- スワングアンツカテーテル挿入
- 心嚢穿刺、胸腔穿刺、腹腔穿刺、膀胱穿刺
- 胃管・栄養チューブ挿入
- フォーリー・カテーテル挿入
- チェストチューブ挿入
- 気管内挿管
- 気管切開
- 除細動等



基本的手技とは

- 現在、研修小委員会で検討中
どの手技を
どれだけ見て、助手として関与したら、単独での
施行許可となるのか
質的評価は
研修年次ごとに分けて規定していくのか
- 各科のより専門的な手技にも基本的にライセンス制
をとるが、これは別に規定する
- 消化器グループでは作成済み



基本的手技の評価法

- 量的評価

見学、助手、術者としての回数

データの蓄積をどうするか

カードに記載し蓄積

手帳に記載

コンピューター管理

- 質的评价

優秀、良、可、要努力の4段階でシニアレジデント、
指導医が評価



基本的手技の標準化

- 従来、科によってまちまちであった
- 状況、場所によって違う点があるので、手術室での～。病棟での～。という風に合わせて標準化
- 現在、担当者を決め、手技の標準化に向けて歩み始めたばかりである



基本的手技の標準化(まとめかた)

- 1) 適応
- 2) 禁忌
- 3) 目的
- 4) 準備する器具・薬剤
- 5) 前処置
- 6) 手技の流れ
- 7) ポイント(手技上のコツや注意事項)
- 8) 手技終了後のチェック事項

